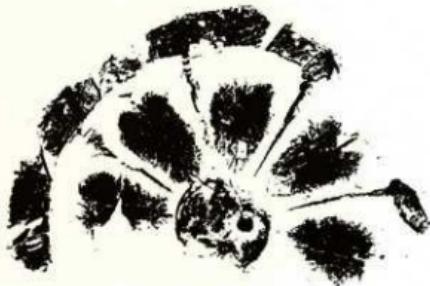


高宮廃寺

—寝屋川市大字高宮—
発掘調査概要報告



1980・3

寝屋川市教育委員会

高宮廃寺

—寝屋川市大字高宮—
発掘調査概要報告



1980・3

寝屋川市教育委員会

序 文

寝屋川市の大字高宮には、延喜式内社の大社御祖（おおもりみおや）神社が鎮座している。この地に古代の寺院跡のあったことは、神社拝殿内及び境内に散在する礎石、東塔跡の基壇と塔心礎、さらに金堂跡と思われる高まりや境内に古瓦が散布することによって古くから知られていた。昭和28年には、大阪府教育委員会の手によって東塔跡が発掘調査され、出土瓦等より高宮廃寺の創建は、白鳳時代のはじめに遡ることが明らかになり、その後数々の研究や報告が行われてきた。

昭和54年9月になって、社殿地北側の民有地に宅地造成の計画が起きたことから、寝屋川市教育委員会は、郷土の大切な文化財である高宮廃寺跡を保存するために、寺域全体の範囲確認調査を実施した。その結果、廃寺の主要伽藍配置及び寺域をある程度明確にすることができた。今後、本格的な調査が実施されるならば高宮廃寺の全容が解明されるであろう。

調査の実施にあたり、ご協力をいただいた土地所有者の方々、及びご指導をいただいた大阪府教育委員会をはじめ関係各氏に心よりお礼を申し上げ、直接調査に従事していただいた各氏に対し深く感謝の意を表するとともに、今度とも本市の文化財保護に一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げる次第である。

昭和 55 年 3 月

寝屋川市教育委員会
教育長 坂中 僕

例　　言

1. 本書は、寝屋川市教育委員会が、昭和54年度国庫補助(総額4,000,000円、補助率一国50%、府25%)を得て実施した寝屋川市大字高宮所在の高宮廃寺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、昭和54年12月14日に着手し、昭和55年3月31日に完了した。
3. 発掘調査は、塩山則之(教育委員会社会教育課嘱託)を担当者とし、調査員として片岡修(グァム大学)、補助員として、田中寿、有家好日昌、奥田達治があつた。
4. 本書の作成については、塩山則之が執筆、実測・トレースは、塩山、田中寿、平野敦子、福田範子が、写真撮影は塩山がそれぞれ担当した。
5. 発掘調査の進行、報告書の作成などについては、大阪府教育委員会文化財保護課井藤徹主査、四天王寺女子大学藤澤一夫氏、大阪府立寝屋川高等学校瀬川芳則氏、財團法人枚方市文化財研究調査会の各氏に指導助言を得たとともに、調査に際して心よく大切な土地を提供していただいた大社御祖神社、小寺辰夫、倉内道子、倉内豊、野口慶治、泰文子、平岩正子、山田市松、山田八三郎、(株)富尾工務店、各氏の協力を得た。また、地元高宮自治会、大社御祖神社氏子をはじめ多くの人々の協力を得た。記して感謝の意を表する。

目 次

序 文

例 言

I 位置と環境.....	1
II 調査に至る経過.....	2
III 調査の概要報告.....	4
IV 遺 物.....	7
V まとめ.....	10

図 版

図 版 目 次

図版1	高宮廃寺周辺遺跡分布図	11
図版2	高宮廃寺地形図及びトレンチ図	12
図版3	トレンチ断面図	13
図版4	トレンチ断面図	14
図版5	回廊第2トレンチ瓦出土状況平面図	15
図版6	高宮廃寺出土遺物実測図	16
図版7	高宮廃寺出土軒丸瓦拓影	17
図版8	高宮廃寺出土軒丸瓦・軒平瓦拓影	18
図版9	高宮廃寺出土軒平瓦拓影	19
図版10	高宮廃寺出土軒平瓦拓影	20
図版11	高宮廃寺遠景・延喜式内社大社御祖神社写真	21
図版12	東塔塔心礎・遺構写真	22
図版13	遺構写真	23
図版14	遺構写真	24
図版15	遺構写真	25
図版16	出土遺構写真	26
図版17	軒丸瓦写真	27
図版18	軒丸瓦写真	28
図版19	軒平瓦写真	29
図版20	軒平瓦写真	30

I 位置と環境

高宮廃寺は、寝屋川市大字高宮 290 番の 4、290 番の 5、291 番の 2、301 番地、303 番地、304 番地、316 番地、317 番地で東西約 200 m、南北約 150 m にあり、生駒山系の西側斜面から派生した洪積層の香里丘陵の南端標高 28 m 前後の一角を占めている。現在その中心伽藍の大半にあたる延喜式内社大社御祖神社（おおもりみおやじんじや）の境内からは、古瓦が出土することで古くから知られており、また神社の拝殿と本殿の間に残る西塔の礎石、その東方に残る東塔跡の基壇と心礎及び礎石、これらの北方に残る金堂跡とみられる土壇の存在も認められ、社殿敷地とその周辺一帯にわたり從来は薬師寺式の伽藍配置を有する古代寺院址があったものと考えられていた。

高宮廃寺の周辺には、寝屋川市国守町の藏王池から西流する楠根川右岸の縄文時代後期の小路遺跡、楠根川の南側を平行して流れる讚良川左岸で旧石器時代、縄文時代中期から晩期の遺物が発掘された四条畷市岡山遺跡、廃寺北東約 300 m 付近の海拔 50 m 近い丘陵には弥生時代中期・後期の太秦遺跡があり、太秦ではナイフ形石器も採集されている。また、寝屋古墳・トノ山古墳・太秦古墳群・打上古墳群も周辺にある。古代寺院としては、寝屋川市太秦廃寺・高柳廃寺・四条畷市讚良廃寺・正方寺などがあり、また西北約 300 m のところには、延喜式内社高宮神社もあるなど多くの遺跡が集中している。

II 調査に至る経過

高宮廃寺は、現在廃寺跡に鎮座する延喜式内社大社御祖神社の境内には東塔跡の基壇及び心礎が残存し、また周辺に礎石が散在しており、昭和28年大阪府教育委員会による東塔跡の発掘調査が行われ、一辺10.3mの規模を持つ塔基壇が確認され、出土の八葉複弁蓮華文軒丸瓦等からこの廃寺の創建年代が白鳳時代に遡ることが明らかにされた。その後も東塔跡を中心に諸々の報告がなされてきたが、寺域全般の発掘調査は行われておらず不明な点も多かった。昭和54年9月になって神社境内の北側に接する大字高宮290番の4、290番の5、291番の2、301番地、302番地、303番地、304番地において宅地造成の計画が起きたことから、寝屋川市教育委員会は、大阪府教育委員会と協議の上大字高宮290番の4、290番の5、291番の2、301番地、302番地、304番地、316番地で昭和54年12月14日から昭和55年3月31日の予定で高宮廃寺の範囲確認調査を実施した。

なお、調査の組織は下記の通りである。

團長	坂中 僕	(寝屋川市教育委員会教育長)
副團長	樋上 勇	(寝屋川市教育委員会教育次長)
〃	鈴木 隆	(寝屋川市教育委員会社会教育部部長)
〃	寺久保 新 逸	(寝屋川市教育委員会学校教育部部長)
調査顧問	藤澤 一夫	(四天王寺女子大学教授)
〃	瀬川 芳則	(大阪府立寝屋川高等学校教諭)
調査担当者	塩山 則之	(寝屋川市教育委員会社会教育課嘱託)
調査員	片岡 修	(グアム大学)
調査補助員	田中 寿・有家好日呂・奥田達治	

調査事務局

事務局長 九鬼利弘 (寝屋川市教育委員会社会教育課課長)

総務担当 高田 稔（寝屋川市教育委員会社会教育課課長代理）
庶務担当 南 邦男（寝屋川市教育委員会社会教育課成人係長）
経理担当 西尾 寛仁（寝屋川市教育委員会社会教育課書記）

III 調査の概要

從来推定されていた薬師寺式伽藍配置を想定し、講堂跡・金堂跡・回廊跡・中門跡・南大門跡及び寺域北部にトレンチを設定した。神社境内については、立木等を伐採することが制限されたためトレンチ設定場所が限定された。

1. 講堂跡

講堂跡推定地に、講堂第1トレンチから講堂第8トレンチまで8ヶ所のトレンチを設定した。

講堂跡推定地中央部に東西24m、幅2mで設定した講堂第4トレンチで赤褐色砂質土を版築することによって築かれた講堂基壇の東端・西端の一部を検出した。東端部・西端部は、それぞれ多量の瓦を包む黒色砂質土層におおわれており、また基壇東端肩部には焼土及び炭層を検出し、基壇東端肩部より西へ約6mの所では焼土層が幅1mで南北方向に帯状に延びている。講堂第1トレンチにおいては、基壇の西端と南西隅を検出しさらに講堂第1トレンチの北延長上に設定した講堂第7トレンチにおいては、同じく基壇西端と北端を検出した。

講堂第2トレンチにおいては、東西約70cm、南北約50cmの花崗岩1個、講堂第6トレンチにおいては、南北方向に並ぶ3個人頭大の花崗岩の石列が見られた。

2. 金堂跡

東塔跡と延喜式内社大社御祖神社（西塔跡）の中間を北に延ばした線上に、現況で若干の高まりをもつ金堂跡推定地に東西南北各辺2ヶ所、計8ヶ所のトレンチを設定した。

金堂基壇は、東第2トレンチにおいて東南隅、西第1トレンチにおいて西端、西第2トレンチにおいて西南隅、南第2トレンチにおいて南端、北第1・第2トレンチにおいて北端がそれぞれ検出された。基壇は、地山を一旦掘り込んだのち

版築をおこなうという方法で築かれており、基壇部は赤褐色砂質土を用い、また掘り込みの部分は暗茶褐色砂質土を用いて固く叩きしめてあり、残存状況もよく基壇高約60cmを測る。金堂跡の基壇は、東西13m、南北12mの規模のものと推察される。

金堂に伴う礎石は、後世の抜き取りのためかまったく検出することはできなかつたが、礎石の根石の一部と思われる花崗岩を数個検出した。金堂の周辺には、直径約40cmの造り出しのある礎石が数個散在しているが、すでに原位置を保つていなければ、金堂の礎石であったと推察される。

各トレンチからは、八葉素弁蓮華文軒丸瓦の他、八葉單弁蓮華文軒丸瓦や唐草文軒平瓦など奈良時代の瓦類が多数出土した。

3. 回廊跡

調査地の北西に竹敷当時の土の入れ替えのために掘られていたところの東西約7m、南北約8m、深さ約1mの溝状掘り込みを清掃してこれを回廊第1トレンチとした。ここにおいて、回廊北西隅を検出した。回廊基壇の上面は、土の入れ替え等のため削平されて基底部の痕跡を残すのみであったが、東壁断面の断面観察により、回廊基壇の上面の幅は4.3m、基底部の幅は4.8mであった。外側に溝の痕跡を有し、溝の幅は現存部で50cmあり、深さは5cmである。基壇の構築は、地山を削って壇をつくりその上に地山と同質の土を盛土している。ここからは、遺物はまったく出土していない。

調査地の北部には中央付近で、回廊第1トレンチの東約25mのところに南北37m、幅1mの回廊第2トレンチを設定した。このトレンチ南端で、上面の幅4.0m、基底部の幅4.2mの基壇を検出した。これは、北回廊の一部と考えられる。基壇は、赤褐色砂質土を版築して築かれており、この基壇上面より八葉素弁軒丸瓦を出土した。さらにこの検出した北回廊の北約3mのところに瓦だめを検出し、この瓦だめからは奈良時代の瓦多数を出土した。

東塔跡の東に東回廊第1トレンチから東回廊第3トレンチまで3ヶ所のトレン

チを設定した。東回廊第2トレンチ・東回廊第3トレンチにおいては、後世の削平のため表土を除去するとすぐ地山であった。東回廊第1トレンチでは、赤褐色砂質土を版築して塗いた基底部の幅4.8m回廊基壇を検出した。基壇の東半分は、後世の削平のため基底部の一部を残すのみであった。東回廊第1トレンチからは、八葉素弁蓮華文軒丸瓦を出土している。

4. 中門跡

中門跡推定地には、中門第1トレンチ・中門第2トレンチの2ヶ所のトレンチを設定した。

東西1m、南北2mで設定した中門第1トレンチでは、大社御祖神社の前を通る市道のためかなり削平されており、表土を除去するとすぐ地山となっていた。しかし、表土層内には多数の奈良時代の瓦類を包含していた。

中門第2トレンチは、中門第1トレンチの北に東西2m、南北3mで設定した。ここにおいては、中門の北端基壇の一部を検出したが基壇はかなり削平されているものと思われる。中門第2トレンチの瓦だめからは、八葉素弁蓮華文軒丸瓦の他、八葉單弁蓮華文軒丸瓦をはじめ多数の奈良時代の瓦類を出土している。

5. 南大門跡

南大門跡推定地には、南大門第1トレンチから南大門第11トレンチの11ヶ所のトレンチを設定した。

東西5m、南北2mで設定した南大門第1トレンチで、地山を切り込んだ基壇状遺構を検出し、その遺構の西で一辺約1mの正方形の大ピット4ヶ所を検出した。東西2m、南北2mで設定した南大門第5トレンチの東南隅で掘り込み遺構を検出し、掘り込み内より軒平瓦等多数の奈良時代の瓦類を多数出土した。

東西2m、南北8mで設定した南大門第6トレンチで瓦だめを検出し、八葉素弁蓮華文軒丸瓦の他、多数の奈良時代の瓦類を出土した。

IV 遺 物

1. 瓦

出土した瓦類は、白鳳・奈良・鎌倉・室町時代に渡るものである。

(1)軒丸瓦

出土したものは、素弁蓮華文軒丸瓦・単弁蓮華文軒丸瓦・巴文軒丸瓦などである。

a)白鳳時代 (図版 7・8・17・18-2・4・6・7・8・9)

八葉素弁蓮華文である。中房に1+4の蓮子を配している。主要伽藍の各所(金堂、北回廊、東回廊、中門、南大門)から出土しており、高宮庵寺創建期のものと推定される。

b)奈良時代 (図版 7・17-1・3・5)

直径15cmと小形で、中房に1+6の蓮子を配し、周縁に鋸歯文を外区には16ヶの珠子を配した八葉単弁蓮華文である。色調は、赤褐色である。

c)三巴文軒丸瓦 (図版 8・18-10・11)

11は直径16.5cmを測り、周縁は幅はあるがあまり高くない。外区には、連珠文が配されている。内区には、右巻きの三巴文が中央でやや盛り上がり、頭部はやや丸味をおびている。尾部は、右隣接の巴の頭部をこえる付近まで延びている。色調は、灰色である。10は、周縁は幅はあるが高くない。外区には、連珠文が配されている。内区の巴文頭部は平坦でとがり、尾部は図版8・18-11よりも発達し、左隣接の巴の中ほどにいたっているものである。

(2)軒平瓦

出土した軒平瓦を文様ごとにまとめて、種類別に分類した。

a類 (図版 8・9・19-12・13・14・15)

内区には、非常に繊細な唐草文を配し、外区には圓線を回している。色調は、

赤褐色で胎土中に上砂粒を少量含ませている。

b類（図版9・19-16）

唐草文は、a類に近いものであるが、若干a類より複雑である。胎土中に少量ではあるが大粒の砂粒を含ませている。色調は、赤茶褐色である。

c類（図版9・20-17）

内区は、唐草文を配しており、外区には杏仁形珠文と連珠文を相互に組み合わせたものである。焼成は非常に良く、色調は青灰色である。

d類（図版10・20-18）

小片のため全体は不明であるが、周縁は高く内区に鳳凰の文様がある。

e類（図版10・20-19・20）

19は、周縁内は圓線で囲まれ、内区に唐草文が配されている。20は、周縁内は圓線で囲まれ、内区は唐草文が配されている。20は、周縁内は圓線で囲まれ、内区に唐草文が配されているという以外は不明であるが、19と同文様のものと考えられる。

f類（図版10・20-21）

周縁は高く、外区上方は連珠文で飾っているが、外区両脇と下方は圓線で囲まれている。内区は、唐草文で中央に左巻きの巴文を配している。

3. 土器

土器は、土師質土器と須恵器が出土した。

(1)土師質土器（図版6・16-1～8）

土師質土器は、小皿が講堂跡（1～7）と金堂跡（8）で出土した。これらの小皿は、やや薄手で底部は平底で、胎土中に微少の砂粒を含んでいる。手法は、手づくねで内面及び口縁部外面はナデ調整が施されている。大きさは、直径8cm前後、高さ1.5cm前後である。（8）は、口縁部に油痕が残っている。

(2)須恵器（図版6・16-9）

須恵器は、南大門推定地より壺蓋（9）が出土している。口径11.5cm、器高3.5

cmで口縁部はやや内傾気味に下外方へ開き端部に至る。端部は丸く、天井部は平らである。色調は青灰色である。

4. 古銭

講堂跡第4トレンチ第4層内より出土した古銭は、延暦15年11月に铸造されたことが『日本後紀』に記されている『隆平永寶』である。

V まとめ

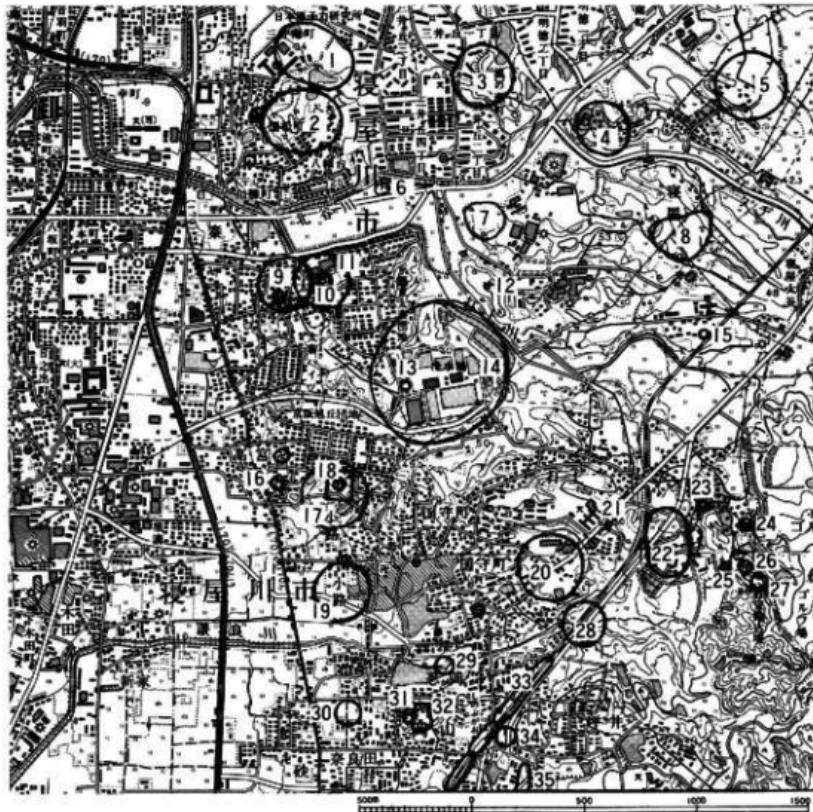
今回の発掘調査は、寺域の範囲確認を目的としたものである。調査地は、大半が大社御祖神社の境内地であり、木立等の諸条件のため調査方法は、トレンチ方式で実施した。

今回の調査で明らかになった事項について列記すると次の通りである。

- 1). 回廊は北西隅と北回廊・東回廊を検出した。回廊は版築をおこなっており、その周辺から創建期の瓦等が出土した。
- 2). 講堂推定地付近より検出した遺構は、出土瓦等から鎌倉時代に建立され室町時代に修復された延喜式内社大社御祖神社の神宮寺の本堂と推定され、旧講堂の一部を利用してつくられたものと推察される。
- 3). 金堂は、基壇の東端部・西端部・南端部・北端部・東南隅・西南隅を検出した。このことにより、金堂の基壇は、東西13m、南北12mのものと推定される。基壇は、地山を一旦掘り込んだのち版築をおこなうという方法で築かれている。
- 4). 各堂塔間の距離は、東・西両塔の心心距離が約27m、塔と金堂の心心距離は約22.5m、金堂と講堂の心心距離が約30m、中門と塔の心心距離で約15mを計測した。
- 5). 当廃寺は、出土瓦等からみて白鳳期に創建され平安時代に一度廃絶したのち、再び鎌倉、室町時代に神宮寺によって法灯がともされたことが今回の調査において確認された。
- 6). 中門と南大門については、それぞれの遺構の一部を確認した段階であり全体の規模については、今後の調査を待たなければならない。

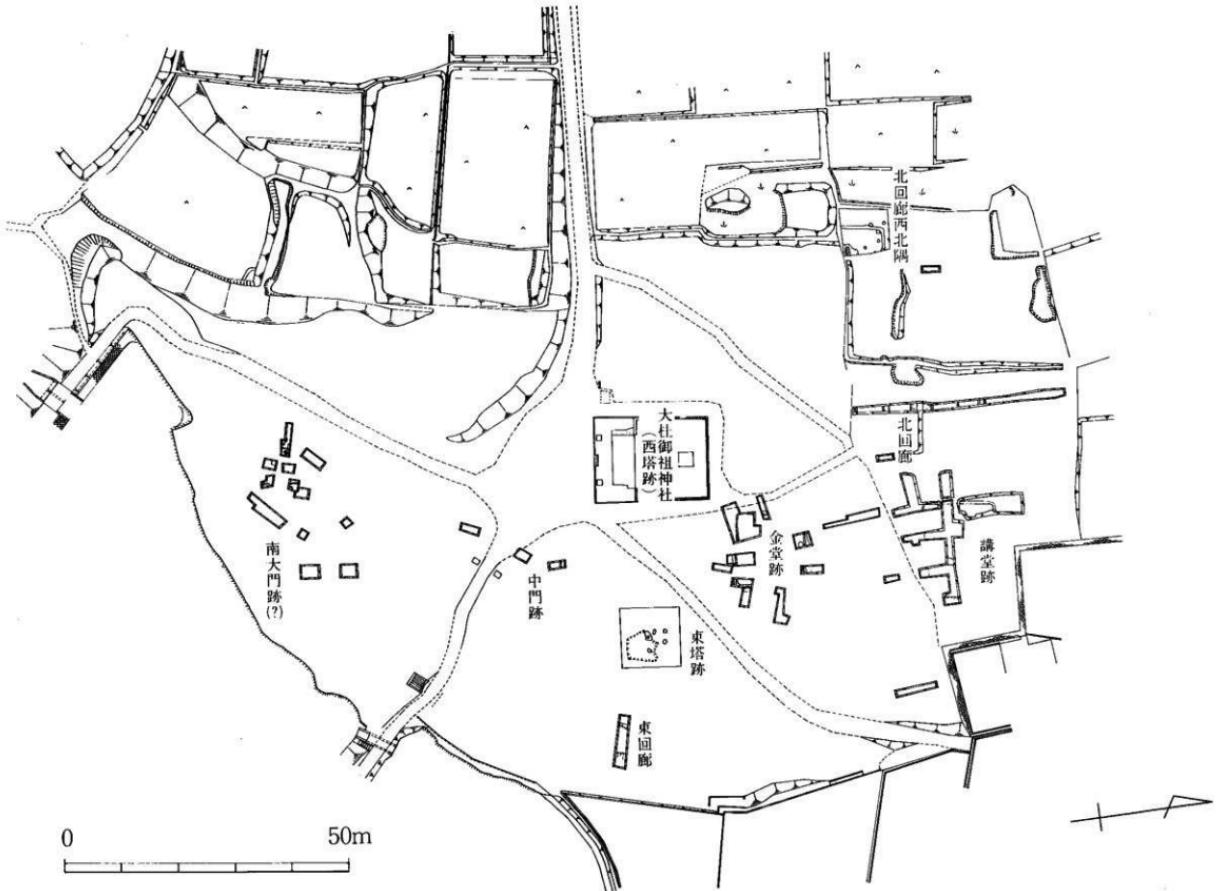
図 版

図版1 高宮鹿寺周辺遺跡分布図

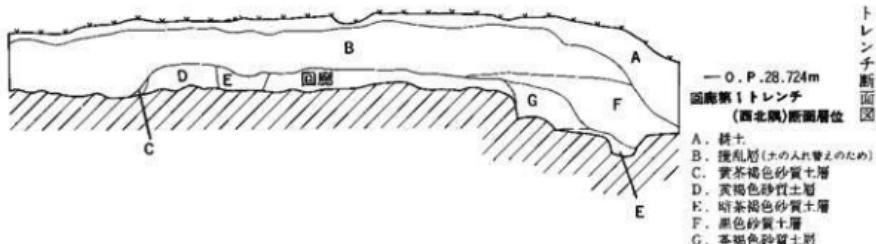


- | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 1. 三井南遺跡 | 2. 春山遺跡 | 3. 池の瀬遺跡 | 4. 寒崖遺跡 | 5. 客星東遺跡 |
| 6. 式内社御神社 | 7. 太妻北遺跡 | 8. 客屋南遺跡 | 9. 神宮寺 | 10. 太妻鹿寺跡 |
| 11. 太秦ハニワ出土地 | 12. 太妻1号墳 | 13. トノ山古墳 | 14. 太秦遺跡 | 15. 客星古墳 |
| 16. 式内高宮神社 | 17. 高宮鹿寺跡 | 18. 式内大社御祖神社 | 19. 小路遺跡 | 20. 国守西遺跡 |
| 21. 打上古墳 | 22. 打上遺跡 | 23. 弘法井戸 | 24. 雷神石 | 25. 打上神社古墳群 |
| 26. 打上(高良)神社 | 27. 史跡石の宝殿古墳 | 28. 国守遺跡 | 29. 諒皇寺跡 | 30. 北口遺跡 |
| 31. 式内忍陵神社 | 32. 忍ヶ岡古墳 | 33. 坪井遺跡 | 34. 忍ヶ丘駅前遺跡 | 35. 岡山南遺跡 |

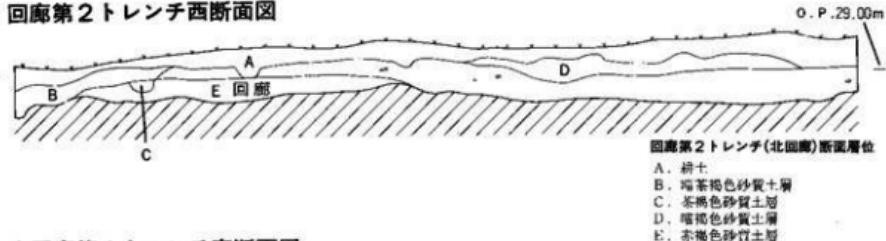
図版2 高宮廢寺地形図及びトレンチ図



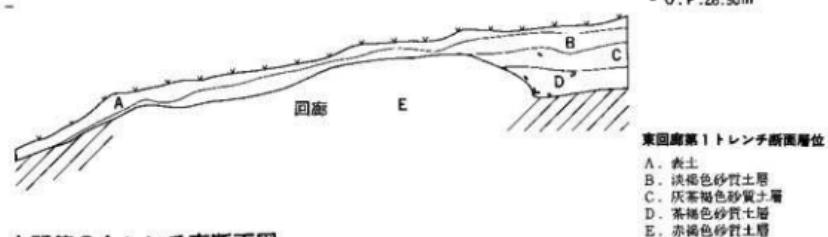
回廊第1トレンチ東断面図



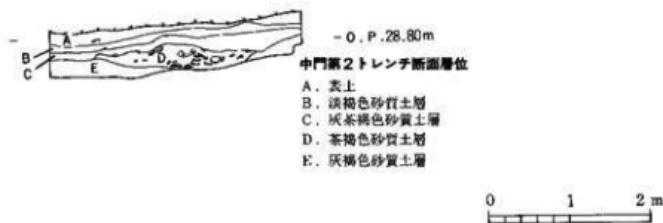
回廊第2トレンチ西断面図



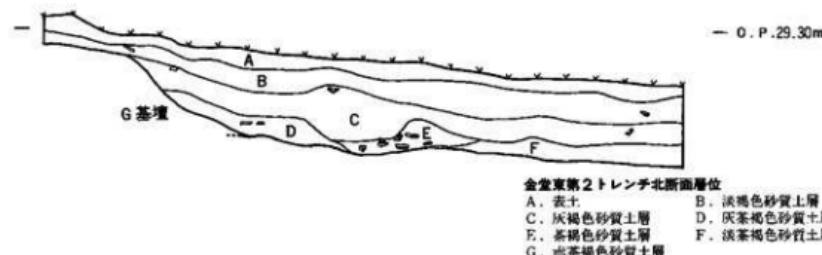
東回廊第1トレンチ南断面図



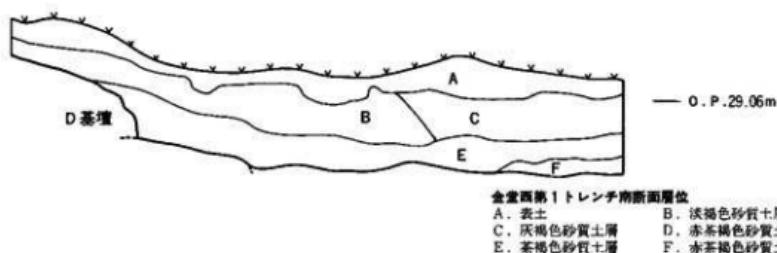
中門第2トレンチ東断面図



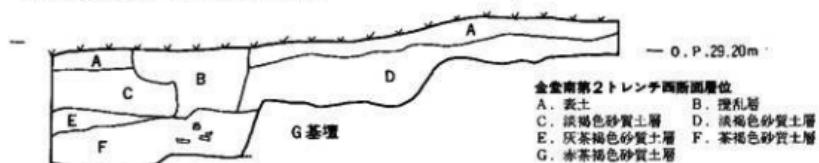
金堂東第2トレンチ北断面図



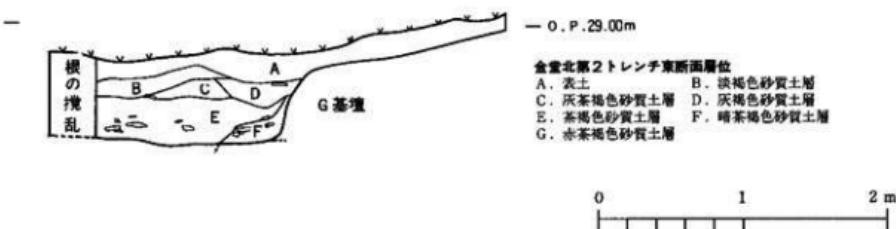
金堂西第1トレンチ南断面図



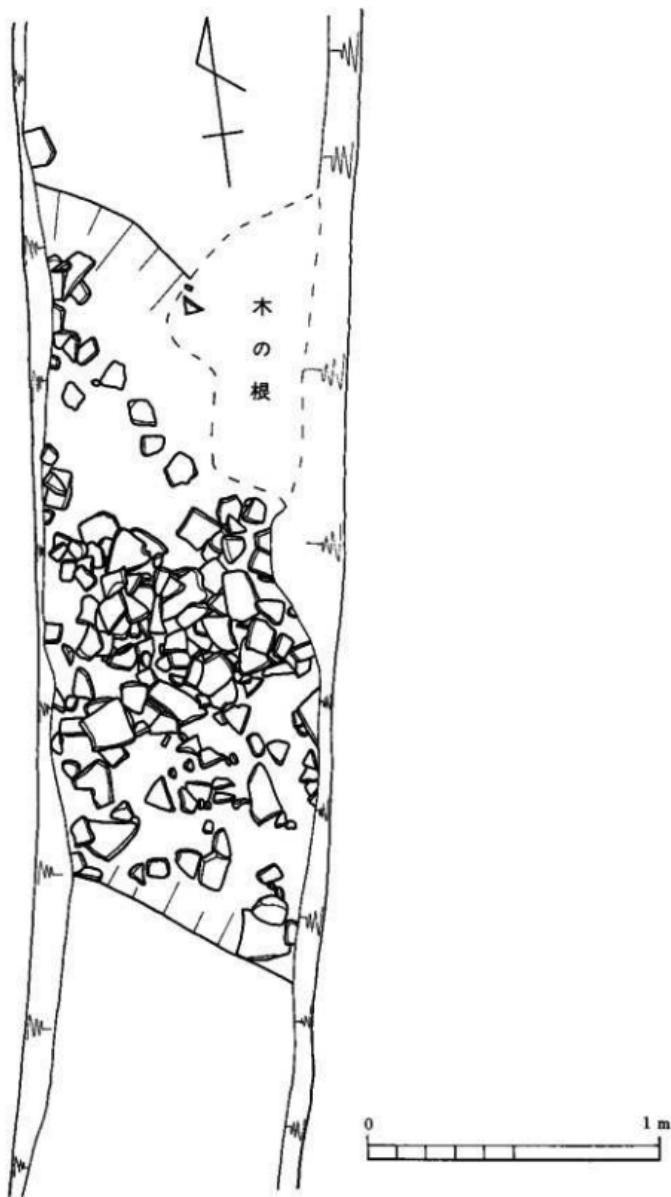
金堂南第2トレンチ西断面図



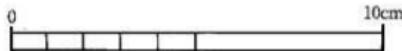
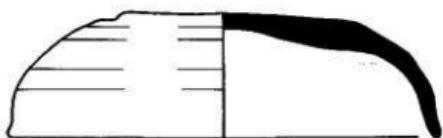
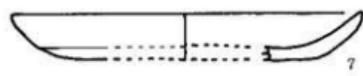
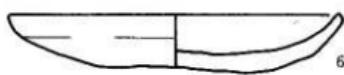
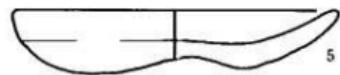
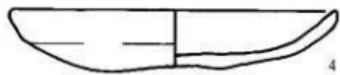
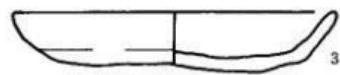
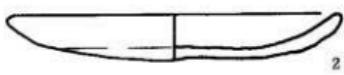
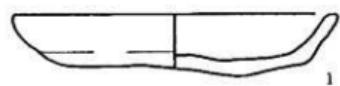
金堂北第2トレンチ東断面図



図版5 回廊第2トレンチ瓦出土状況平面図



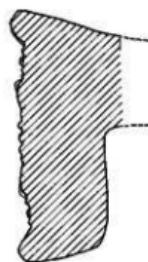
圖版 6 高宮廃寺出土遺物実測図



圖版 7 高官廳守出土軒瓦拓影



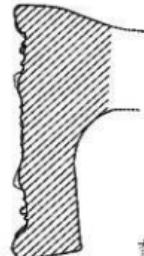
1



2



3



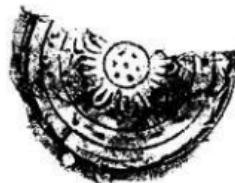
4



6



6



5



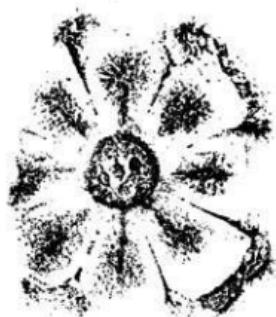
0 10cm



7



圖版 8 高宮庵寺出土軒瓦・軒平瓦拓影



8



9



10



11



12



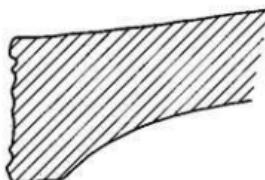
13



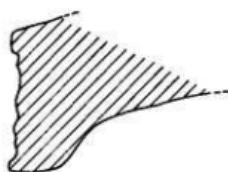
0 10cm



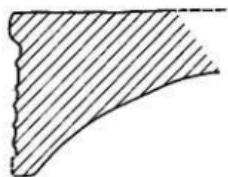
14



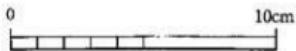
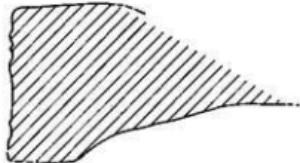
15



16



17





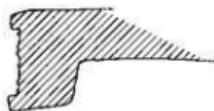
18



19



20



21



0 10cm



高宮廃寺遠景（南より）



延喜式内社大社御祖神社



東塔塔心磚



回廊（西北隅）



回廊（北回廊）



講堂（東瓦だめ）



金堂（西南隅）



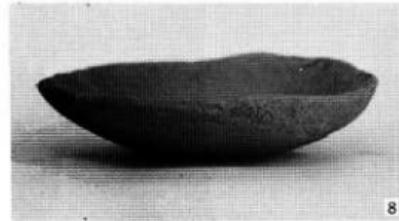
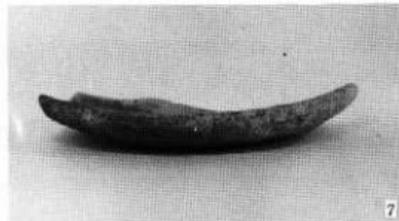
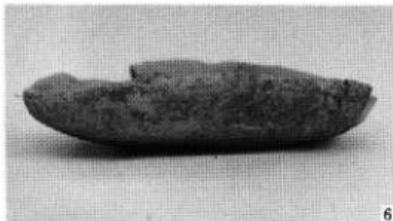
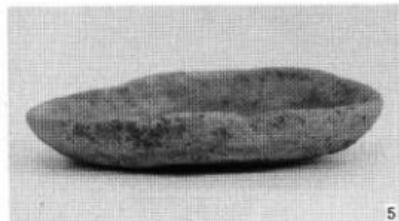
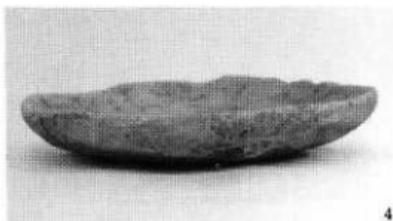
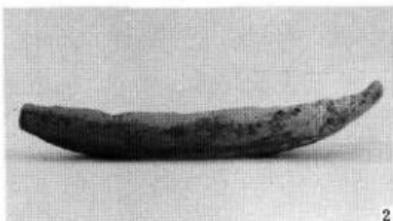
金堂（北）



中門（瓦だめ）

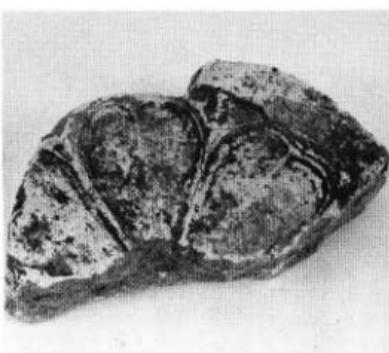


南大門推定地（ピット群）





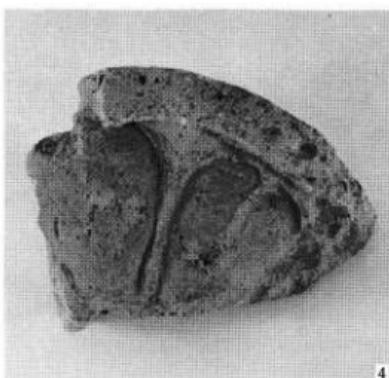
1



2



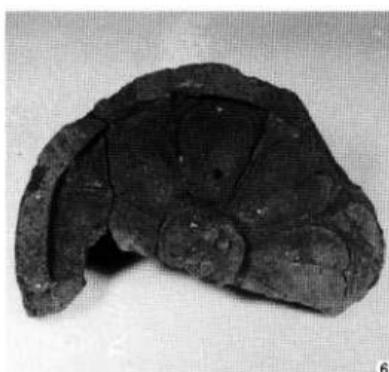
3



4



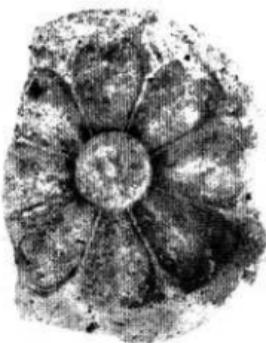
5



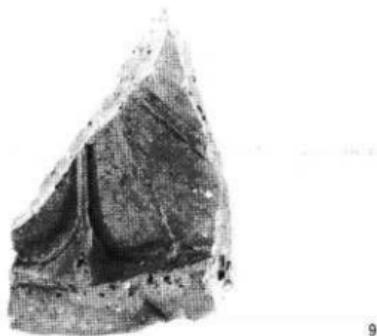
6



7



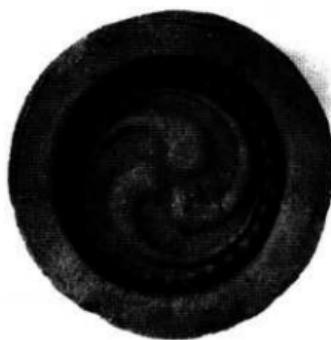
8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21

高宮廃寺発掘調査概要報告

昭和 55 年 3 月 発行

編集 寝屋川市教育委員会

発行 寝屋川市教育委員会
大阪府寝屋川市本町1番1号

